

私の人生のすべての努力は『恨み』を原動力に

2018/10/06
室谷利江 看護師

夏莉先生。たくさんの言葉が心に深く沁みました。

いくつか取り上げて感想を書かせていただきました。

「かわいそうな話と思わないでほしい」

「かわいそう」は私の嫌いな言葉です。自分が言われたら、見下されているような惨めな感じがします。お互いを対等に思えば、かわいそうとは思われたくはありません。

当事者が悲しみを感じているときの対応で、励ますとか慰めるなどという行為も意味のないことと思います。励ますことも慰めることもできない悲しみがあることを知らなくてはならないし、そのような悲しみを抱えた人にとって理解者であり続けるために考え続けたいです。

「私の人生のすべての努力は『恨み』を原動力にしている」

なんと凄みのある言葉かと思いました。当事者でなくては言えない言葉だと思います。私たちは、すべてを経験できないのですから当事者のこのような言葉に触れて考える必要がありますね。でも、当事者と全く同じ想いを共有できないのですから、せめて理解しようとする人であり続ける努力はできるのだらうと思います。

「その人の幸せか不幸かは、その人が決めるもの」

幸せと感じる状態は人それぞれという事ですね。今まで、自分のものさしで勝手な判断をしていたのだらうと思います。その人の話をよく聴かなければわからないことでしょう。

「病気でも得るものもあるはず」「語る 話す 放す」も話を聴いてもらうことで、自分の中で気付けるようになることではないかと思います。そのような関りが支えとなり、苦しみがあってもなお人は穏やかになれるし幸せを感じられるのではないのでしょうか。

先生の「今は支えがある。」という言葉と、「時間が薬」「誰かを犯人にしない」「自分の縄張りを広げる」は、まさにスピリチュアルケアであると思います。

スピリチュアルケアの三つの概念、時間存在、関係存在、自律存在と重なりました。先生は、大きなスピリチュアルペインを持ちながら人によってケアされて来られたのかもしれないと感じました。

優しい先生の顔立ちの向こうにしなやかな諦めない強さを感じられた講義でした。

最後の「小さなノミでも打ち続ければいつか穴が開く」という言葉は、私も大切にさせていただきます。